公園管理運営実践講習「Ⅰ」グループディスカッション　成果シート（提案書）

2019年11月23日	
班番号	1
進行役	
書記係	
発表者	

タイトル

生きものプラットフォームをつくる

調査 → 区画設定 → 資金調達 → チームづくり

専門家と
市民の声を反映

・外来生物
・過去の生物種
・動物
・植物

ビオトープ
～失われゆく湿地～

田んぼの再現

里山

ファンドの活用

民間からの寄附

NPO
ボランティア等

配当

・おいしい体験
～食べる里山～

広報活動

・観察会
・SNSの活用
・年間イベント化

公園管理運営実践講習「Ⅰ」グループディスカッション　成果シート（提案書）

2019年11月23日	
班番号	2
進行役	
書記係	
発表者	

タイトル

[市民との協働で進める生物多様性保全の公園づくり]

P 計画　市民ニーズの把握

例・現地見学会　・現状の調査
・アンケートの収集　例 植生の調査
・パブリックコメント　・動植物の調査

⇨ これらにより 基本計画の策定 目標の設定（短期・中期・長期）

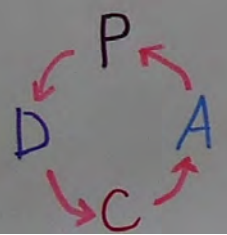
D 実行　基本計画にあわない動植物の除去 ⇨ モニタリング

生態系の保全　例 地域性巨木の植栽・自然観察会の実施

運営協議会の開催

C 確認　目標の達成状況の確認　アンケートをとる・市民参加による管理状況

A 是正　学識者のアドバイス・市民参加のさらなる促進



PDCAを時間軸をもって繰り返す！

公園管理運営実践講習「I」グループディスカッション 成果シート(提案書)

2019年 11月23日	
班番号	3
進行役	
書記係	
発表者	

タイトル
[絶滅危惧種がある公園 (植物の生息域外保全)]

管理者

- 公開時間や曜日を制限する
- 専門の管理者を設ける
- 地域の人に知ってもらいたい!

利用者

- 利用者はいつでも好きに見たい. △
- 詳しく知りたい. ○
- めずらしい植物はほしい. △

課題

- 盗くつや獣害
- 維持・管理のコスト

対策

- パトロール
- フェンスの設置
- 防犯カメラの設置

促進

- 小・中学校へ授業で伝える.
- 自治会での保全活動(公園管理者と一緒に)

公園管理運営実践講習「 I 」グループディスカッション 成果シート(提案書)

2019年11月23日	
班番号	4 班
進行役	
書記係	
発表者	

タイトル

[自然の里山を守る公園づくり]

調査

・昆虫
・魚
> すくいとり
> (野外調査)

・動物 ー 昼・目視
夜・赤外カメラ

・地域の人の話(重要)

評価

設計

元々の土地に近い
公園をつくる

里山公園

〈ポイント〉
手つかずのエリアを残す

エリアを分ける

森

水辺

遊具

公園管理運営実践講習「　　」グループディスカッション　成果シート（提案書）

2019 年 11月 23日	
班番号	5
進行役	
書記係	
発表者	

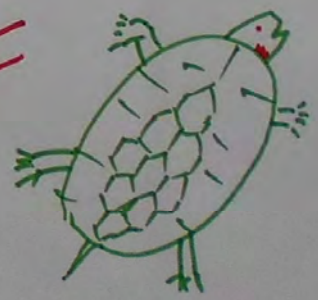
タイトル

[環境教育の重要性]

1. 問題　特定外来生物の繁殖による在来種生態系の破壊
（日常の中に潜在していることに気がつかない
ミシシッピー（ミドリガメ）、オオキンケイギク etc.
アカミミガメ

2. 取り組み　小中学生に対して環境学習を通して教育していく
学校の先生、大学教授、エコウィング明石等の市民団体との協働

3. 対策　オオキンケイギク ⇒ 抜く、燃却処分
市民、ボランティア団体等による環境学習として
ミシシッピーアカミミガメ ⇒ 捕獲、冷凍、堆肥化



公園管理運営実践講習「Ⅰ」グループディスカッション 成果シート(提案書)

2019年11月23日	
班番号	6班
進行役	[redacted]
書記係	[redacted]
発表者	[redacted]

タイトル

[四季折々の自然を感じられる公園づくり~夏ver.~]

○課題

① 以前、見られていた動植物が最近確認できていない

② 外来種による生態系の変化

③ 経費・人員の

☆長期構想

春 サクラ

夏 ユリ

秋 トンボ

冬 野鳥

きれいなユリを咲かそう!!

○対応策

① 実態調査

地域有識者、及び教育機関(大学)と協力した生態系環境の調査

② 害獣の駆除・防除

植物系外来種への対策

猟友会による駆除や、エサ場をつくることで誘導。住民が勝手に植えたりすることのないよう、住民参加によるルールづくり・PR.

③ 地域住民参画による取組

- 住民ボランティアによる巡回(老人会、自治会との協同)
- 「子ども散策隊」や自然観察会の企画.
- 公園管理者の取組をPRする看板やホームページ、SNSにより発信・周知.
- 管理作業(いも掘り、休耕刈り)を含むイベント化(持帰りプレゼント企画)

公園管理運営実践講習「　　」グループディスカッション　成果シート（提案書）

令和元年11月23日	
班番号	7
進行役	
書記係	
発表者	

タイトル

[加呂登池の在来種を守ろう！]

[現状]

場所　大阪府堺市「加呂登池」
大泉緑地内

規模：1ha程度の人工池

現状：メダカなどの在来種と
地域の子ども達とのふれあいを目的に
ボランティアが年1回池干しを行っている

[対策]

生物を大切に飼う意識の向上の講習会

・巡視の強化

・親子参加型、体験型のイベントプログラム企画

・状況に応じた的確な植物管理

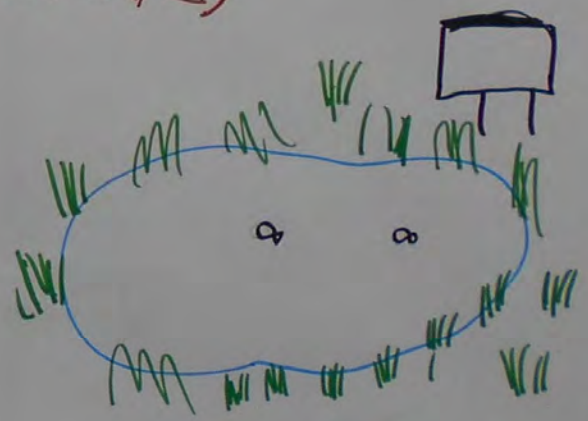
・定期的な看板の更新
（注意喚起）

[問題点]

- 「カダヤシ」や「ザリガニ」といった外来種の侵入
原因）飼えなくなった為放流が、or 飼主の意識低下が

- ボランティアの高齢化

- 夜間に人が立ち入りやすい状況
池の囲いが無い



公園管理運営実践講習「 I 」グループディスカッション 成果シート（提案書）

2019 年 11 月 23 日	
班番号	8
進行役	
書記係	
発表者	

タイトル

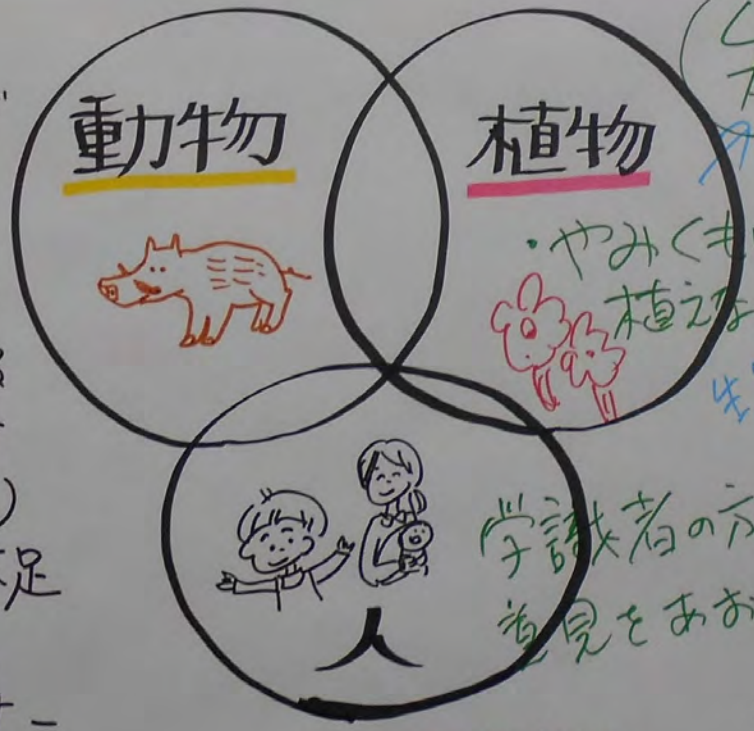
[都会の杜（もり）～生物多様性保全のモデル]

都市環境の中にビオトープを！

問題点・課題

- シカ・イノシシ等が町に来る
- 外来種の繁殖（ヌートリア等 セイタカアワダチソウ）
- 食草減少による在来種の減少（ギフチョウ等）
- 人材、資金不足
- 地域住民のモラル・マナー
- 実際の里山へは遠い

方向性・対策



知識

- やみくもに植えない

生態系に沿う！

学識者の方に意見をあおぐ

近隣企業に依頼する（資金をあつめる）

未来モデル

（子供達に残す）

- 都市公園の中にモデルをつくる。

メリット

- 近くにある（学校 指導者）
- 生育から手がける
- 温室なども使う
- ビオトープの形成が簡単にできる
- 企業援助（ネーミングライツ）